

細川順三・平佐 修による
フルートとギターの夕べ



プログラム

マウロ・ジュリアーニ=グラン・デュエット・コンチェルタンテ 作品52
Mauro Giuliani: Gran Duetto Concertante op.52

Andante Sostenuto
Menuetto
Rondo Militare

マヌエル・M・ポンセ=南国風ソナチネ(ギター・ソロ)
Manuel Maria Ponce: Sonatina meridional

Campo
Copla
Fiesta

ヴィリー・ブルックハルト=セレナーデ 作品71-3
Willy Burkhard: Serenade op.71-3

Preludium und Lied
Romanse
March

フランツ・P・シューベルト=ソナタ イ短調 D.821「アルペッジョーネ」
Franz P. Schubert: Sonata in A minor D.821 "Arpeggione"

Allegro moderato
Adagio
Allegretto

ジャック・イベル=間奏曲
Jacques Ibert: Entr'acte

ホアキン・ロドリーゴ=暁のセレナーデ
Joaquin Rodrigo: Serenata al Alba del Dia

Andante moderato
Allegro

今夜の曲目について

平佐 修

フルートとギターの組み合わせは、リコーダーとリュートの時代(15、6世紀)にまで遡って見ても相性の良い楽器と言えると思います。勿論、フルートとリコーダー、リュートとギターとはお互いに相違点も多いのですが、笛と撥弦楽器と考えるとかなり長い歴史を持つ組み合わせと言えるでしょう。

作品も、オリジナル、編曲作品、また、この二つの楽器を含む室内楽作品等を数えると相当の量にのぼり、国内・外の作曲家によって新しい作品も書かれるようになってきました。ところが、国内、特に札幌に於ては、それ等作品の演奏される事が余りにも少ない現状を見ると、今日のコンサートを契機に、それ等作品を紹介する事が、私のギタリストとしての大きな仕事とも思え、また、ギター・ソロばかりに専念し、視野の狭い表現・活動を避ける為にも、これら他の楽器とのアンサンブル活動を続けて行きたいと考えています。

さて、今日の曲目はシューベルトを除いて総てオリジナルの作品になりますが、ギターがスペインの民族楽器から、中央ヨーロッパに於て他の楽器と同様の地位を得るのは、そんなに早くではなく、19世紀も目前にさしかかって、M・ジュリアーニ、F・ソル、F・カルリ、M・カルカッシ等がウィーンやパリで活躍した事です。

M・ジュリアーニはウィーンに於てベートーヴェンやシューベルトが次第に名声を博す時期に、ギタリスト・作曲家として活躍している。ギター・ソロをはじめ、協奏曲、ギターを含む室内楽曲に重要な作品を数多く残し、ソルと双璧を成す当時の代表的作曲家です。

エストレーリータで知られるメキシコ最大の作曲家M・ポンセは、パリでデュカに学んでいます。ギター作品の殆どは1924年にセゴビアに会った後に彼の為に書かれています。世界中のギタリストがレパートリーに必ずポンセの作品を持ってるほどギタリストにとって重要な作曲家です。

W・ブルックハルトはF・マルタン、H・ハウクと共に現代スイスを代表する作曲家です。残念な事は、ギターを含む作品はこのセレナーデが唯一です。新古典的技法にロマン風な味わいを持つ佳品で、フルートとギターのレパートリーに欠く事のできない作品です。

F・シューベルトについては今更何を書く必要もないと思います。数年前にこのアルペッジョーネ・ソナタが国内版で編曲出版されたのですが、ギターのパートが余りに原曲のイメージを壊している様に思え、自分で編曲してみる気になりました。編曲すると言う事は浅学な自分にとって容易な事ではなく、原曲に忠実である事が決して重要な事でも、ギターにとって可能な事でもありませんが、技術的に易しくする事で作品の価値を貧弱にしてしまうのでは、編曲してまで取り上げる意味を失ってしまうと思います。この曲はフルート、ギター両者にとって編曲作品となる為、楽しみでもあり、また不安もあります。

J・イベール、J・ロドリーゴについても良く知られている作曲家なので、改めて書く事もありませんが、ロドリーゴの「暁のセレナーデ」とは少々気になるタイトルです。セレナーデとは、夕暮れに意中の人の窓辺で奏でられる音楽の意味あいがあるのですが、「暁の……」とあるのは、夕暮れだけでは間に合わず、夜を徹して奏で続けたのだろうか……、果して窓は……？歓喜に満ちた



細川 順三(フルート)

1949年東京生まれ。フルートを三村園子氏に学び、東京芸術大学在学中に吉田雅夫、小泉剛の各氏に師事。

71年第40回音楽コンクールで第2位入賞。73年芸大卒業後、スイスでモイーズ氏に師事。同年、札幌交響楽団に入団。76年9月から1年間、文化庁海外派遣研修員としてスイスに在住し、バーゼル音楽院でグラーフ氏に師事。札幌首席奏者として活躍するかたわら、独奏者として札幌定期をはじめ、北電ファミリー・コンサート、地方公演等で協演の他、室内楽活動も数多い。昨年、東京、札幌でリサイタルを行う。



平佐 修(ギター)

1948年札幌生まれ。ギターを大塚房喜氏に師事。H.ゴンザレス・モイー、R.S.デラマーサ、N.イエベス、L.プロウエルの各氏にレッスンを受ける。70年第13回全日本ギター・コンクールに入選。72年旭川でリサイタルを開催。同年から75年まで、アンサンブル・ラークの一員として道内巡演。また、75年より80年まで河村通夫氏とソロ及び伴奏者として全国を巡演。

道内では札幌を中心に十数都市で、また道外では東京をはじめ仙台、八戸など数都市でリサイタルを行っている。83年には、米国ロサンゼルス市でソロ及び自作品を含むプログラムで一週間公演。レパートリーは、室内楽、器楽、声楽の伴奏、協奏曲等幅広い。今年9月には、札幌で6回目のリサイタルが予定されている。

あなたの、最高の音楽のために——!
あなたのための大切な一台のピアノです……

当社取り扱いピアノ

一条本店

- ペトロフ(チェコ、ハラディッラローべ)
- ベーゼンドルファー(オーストリー、ウィーン)
- グロトリアン(西ドイツ)
- ブリュートナー(東ドイツ、ライプツィヒ)
- アウグストフェルスター(東ドイツ、レーバウ)
- スタイルンウェイ(西ドイツ、ハンブルグ) =近日中M型入荷予定

三条店

- ギター・J.ラミレス、河野賢、桜井正毅他
- ハープ・サルヴィ、ライオンヒーリー、青山
- マンドリン・エンペルガー、カラーチェ etc

※ハープ・ギター教室開講中!/
(一流演奏家の指導による)

——入会はいつでもどうぞ——

各種ローン3回～60回をご利用下さい。

株式会社 かけはら楽器店